



異臭が漂う中、役場裏の駐車場で集めたごみの分別作業をする役場職員

クリーンアップ大作戦で集めたごみは1,370^キにも及びました

袋がすぐに満杯 暗い気持ちに…

村観光協会長 嵯峨 政嘉さん (旭日区)



今回は時間が取れたので、軽トラックに店からごみ袋をたくさん積み、早朝から家族とともに参加しました。多くの皆さんのごみ袋がすぐに空き缶などのごみで満杯になり、途中でごみ袋が足りなくなるほどでした。

村内の所有者の名前が書いてあるテレビやパソコンの不法投棄の実態。今では厳しく問われる犯罪行為です。特定されれば間違いなく逮捕、懲役、もしくは罰金刑です。次代を担う多数の子どもたちの目にどのように映ったのか暗澹たる気持ちになりました。



ごみは持ち帰るルールを守ろう

上向 文子さん (堀内)

まついそ公園周辺のごみを拾いました。公園が出来たばかりはごみがひどかったですが、かなり少なくなったと感じました。

今はどこの観光地に行ってもそうですが、「ごみは持ち帰りましょう」がルールですね。皆さんにそれが浸透してきたのではないのでしょうか。それでも今回も空き缶などが多くて残念でした。

一斉に全地区を清掃
きれいな村を見てほしい。そんな願いで観光シーズンを控えた4月13日、村観光協会(嵯峨政嘉会長)は全村民に呼び掛け、村内一斉の「クリーンアップ大作戦」(清掃活動)を行いました。
朝6時30分から7時30分までの1時間、それぞれの地区のごみ拾いに約250人が汗を流しました。
皆さんはポリ袋とごみバサミを手にしなげら、道路脇などに捨てられた空き缶やビン、レジ袋、雑誌などを懸命に拾い集めました。

午前8時過ぎ、役場裏の駐車場に各地区で集められたごみが2リタンブいっぱい運ばれてきました。
回収されたごみの多くは、ビールやジューズ、コーヒーの空き缶、ペットボトルなどが多く、中にはブラウン管テレビなどもありました。
道路脇にビールの空き缶が捨てられているというところは、普通に考えると運転者か同乗者が飲んで捨てたということになります。

収集ごみは1ト以上
今回のクリーンアップ大作戦で国道や県道、村道など村全域から集まったごみの量は、1370^キにも及びました。たった1時間でこの量です。
担当の商工観光係の道下勝弘主任は「昨年の2030^キに比べるごみの量は減っています。依然として空き缶、ペットボトルが多かったです。それでも皆さんの協力できれいになりました。観光地としておもてなしの気持ちで、美しい村を見せてあげたいです」と話していました。
異臭が漂う中、収集されたごみは、役場職員が可燃ごみ、不燃ごみに分別し、翌日久慈



ブラウン管テレビやファンヒーターなども捨てられていました

やめようポイ捨て!

広域清掃センターに運ばれました。

ポイ捨ては誰もが悪いことだと知っているはずですが、でも現実には心ない人たちのポイ捨てはなくなりません。道路などに捨てられたごみは、決してどこかに消えたりはしません。誰かが拾わなければ次第に増えていくのです。
「ポイ捨てはなるべくならないべ」と言っ人もいます。でも、あきらめて何もしなければ今のままで何も変わりません。私たち一人ひとりがしなければならぬことは、「ごみはくずかごに」というルールを守ることに。それだけです。
心ないポイ捨ては、一人ひとりの気持ち一つでなくすことのできる行為なのです。



黒崎へ向かう県道の清掃にたくさんの人が参加



白井地区では国道45号のごみを拾いました

きれいな村を未来に残したい——。そんな思いで、村内一斉にごみを拾いました。みんなで協力して、1ト以上も集めました。でも、その数日後には、願いもむなしく空き缶が捨てられていました。誰かが気付いて拾わない限りこの空き缶はやがて「ごみ」となり普代の大切な自然を汚していきます。美しい村であるために、ごみを拾うことは必要なこと。でも、本当にしなければならないことはごみを拾わなくてもいい環境をみんなの手でつくっていくことです。だから、お願いします

「心ないポイ捨ては、やめてください」

きれいな村はみんなの願い…だから
くずかごに
くずかごに
くずかごに

クリーンアップ大作戦の数日後には、国道45号や県道、村道などに空き缶やペットボトルが捨てられていました